

# 令和元年度事業報告

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

# 目 次

## 概説

- I 囲碁普及事業（公益目的事業1）
  - 1 棋戦事業
  - 2 棋士育成事業
  - 3 囲碁普及と囲碁指導
    - 3-1 青少年等への囲碁普及
    - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
    - 3-3 海外への囲碁普及
  - 4 囲碁対局環境の提供
  - 5 段級位認定
  - 6 囲碁大会の開催
    - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
    - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
    - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
  - 7 表彰
  - 8 囲碁関係情報提供
  - 9 囲碁殿堂資料館
  - 10 各拠点での活動
    - 10-1 有楽町囲碁センター
    - 10-2 関西総本部
    - 10-3 中部総本部
    - 10-4 海外囲碁センター
- II 収益事業
  - 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
  - 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
  - 3 販売品、書籍事業（収益事業3）
- III 管理部門
  - 1 コンプライアンス
  - 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
  - 3 広報対応と棋士のメディアへの露出
- IV 「100周年ビジョン」の推進

## 付記

- 役員等に関する事項
- 令和元年度 事業報告

## 概説

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

## I 囲碁普及事業（公益目的事業1）

### 1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の様子は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁愛好家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

令和元年度も平成30年度と同様に、二度の七冠を達成した井山裕太五冠を中心に各棋戦が行われました。十段戦では、前年に続き村川大介八段との挑戦手合となり、挑戦者の村川大介八段が十段を獲得、井山九段は四冠に後退しました。碁聖戦では前年、井山七冠のタイトル独占を崩した許家元碁聖に羽根直樹九段が挑戦し、羽根九段が8期ぶりに碁聖を獲得しました。8月からの名人戦では張栩名人に芝野虎丸八段が挑戦し、芝野八段が史上最年少（19歳11ヵ月）で名人となり、囲碁界にとどまらずニュースとなりました。芝野虎丸名人は王座戦でも挑戦者となり、井山王座との挑戦手合は注目の対局となりました。挑戦者の芝野名人が名人獲得の勢いのまま王座も奪取し、二冠となりました。

これらを含めた棋戦（挑戦手合、決勝）の結果は以下の通りです。

（段位は対局当時。棋戦名、期・回数、棋戦の形式、主催や協賛社名、対局者と結果。棋戦形式無記はトーナメント戦）

- (1) 碁聖戦（第44期 挑戦手合七番勝負 読売新聞社）  
井山 裕太 碁聖 — 河野 臨 九段  
（井山裕太 碁聖が4勝2敗で碁聖位を8連覇）
- (2) 名人戦（第44期 挑戦手合七番勝負 朝日新聞社）  
張 栩 名人 — 芝野 虎丸八段  
（芝野虎丸 八段が4勝1敗で名人位を奪取）
- (3) 本因坊戦（第74期 挑戦手合七番勝負 毎日新聞社）  
井山 裕太 本因坊 — 河野 臨 九段  
（井山裕太 本因坊が4勝2敗で本因坊位を8連覇）
- (4) 王座戦（第67期 挑戦手合五番勝負 日本経済新聞社）  
井山 裕太 王座 — 芝野 虎丸 名人  
（芝野虎丸 名人が3勝1敗で王座位を奪取）
- (5) 天元戦（第45期 挑戦手合五番勝負 新聞三社連合）

- 井山 裕太 天元 — 許 家元 八段  
 (井山裕太 天元が3勝2敗で天元位を5連覇)
- (6) 碁聖戦 (第44期 挑戦手合五番勝負 新聞囲碁連盟)  
 許 家元 碁聖 — 羽根 直樹 九段  
 (羽根直樹 九段が3勝2敗で碁聖位を奪取)
- (7) 十段戦 (第57期 挑戦手合五番勝負 産経新聞社)  
 井山 裕太 十段 — 村川 大介 八段  
 (村川大介 八段が3勝1敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦 (第26期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)  
 一力 遼 阿含・桐山杯 — 張 栩 名人  
 (張栩 名人が勝ち5回目の優勝)
- (9) 阿含・桐山杯日中決戦 (第21期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)  
 張 栩 日本桐山杯 — 范 廷鈺 中国桐山杯  
 (張栩 日本桐山杯が勝ち優勝)
- (10) 新人王戦 (第44期 しんぶん赤旗)  
 孫 喆 七段 — 小池 芳弘 四段  
 (孫喆 七段が2勝0敗で新人王を獲得)
- (11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦 (第67回 NHK)  
 一力 遼 NHK杯 — 井山 裕太 棋聖  
 (井山裕太 棋聖が勝ち3回目の優勝)
- (12) テレビ囲碁アジア選手権 (第31回 NHK、CCTV、KBS)  
 申 眞諝 九段 (韓国) — 丁 浩 六段 (中国)  
 (申眞諝 九段が勝ち優勝)
- (13) 竜星戦 (第28期 囲碁将棋チャンネル)  
 一力 遼 竜星 — 上野 愛咲美 女流棋聖  
 (一力遼 竜星が勝ち優勝)
- (14) 囲碁マスターズカップ (第9回 フマキラー)  
 趙 治勲 名誉名人 — 小松 英樹 九段  
 (趙 治勲 名誉名人が勝ち4回目の優勝)
- (15) ワールド碁チャンピオンシップ (第4回 日本棋院)  
 2020年度に延期
- (16) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第6回 グロービス)  
 申 旻埜 九段 (韓国) — 王 沢錦 六段 (中国)  
 (申旻埜 九段が勝ち初優勝)
- (17) 女流本因坊戦 (第38期 挑戦手合五番勝負 共同通信社)  
 藤沢 里菜 女流本因坊 — 上野 愛咲美 女流棋聖  
 (上野愛咲美 女流棋聖が3勝1敗で女流本因坊位を奪還)
- (18) 会津中央病院杯・女流立葵杯 (第6期 挑戦手合三番勝負 温知会)

- 藤沢 里菜 女流立葵杯 — 上野 愛咲美 女流棋聖  
 (藤沢里菜 女流立葵杯が2勝0敗で女流立葵杯を防衛)
- (19) 女流棋聖戦 (第23期 挑戦手合三番勝負 NTTドコモ)  
 上野 愛咲美女流棋聖 — 鈴木 歩 七段  
 (鈴木歩 七段が2勝1敗で女流棋聖位を奪取)
- (20) 扇興杯女流最強戦 (第4回 センコーグループホールディングス)  
 藤沢 里菜 女流本因坊 — 謝 依旻 六段  
 (藤沢里菜 女流本因坊が勝ち2回目の優勝)
- (21) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦 (第3回 センコーグループホールディングス)  
 2020年度に延期
- (22) 王冠戦 (第60期 挑戦手合一番勝負 中日新聞社)  
 伊田 篤史 王冠 — 小泉 真樹 九段  
 (伊田篤史 王冠が勝ち王冠位を4連覇)
- (23) 広島アルミ杯・若鯉戦 (第14回 広島アルミニウム工業)  
 平田 智也 七段 — 六浦 雄太 七段  
 (平田智也 七段が勝ち優勝)
- (24) S G W中庸戦 (第2回 セントグランデW)  
 16名のリーグ戦。黄翊祖八段が優勝
- (25) おかげ杯囲碁トーナメント戦 (第10回 濱田総業)  
 芝野 虎丸 七段 — 安達 利昌 六段  
 (芝野虎丸 七段が勝ち優勝)
- (26) おかげ杯国際新鋭対抗戦 (第6回 濱田総業)  
 日本、中国、韓国、中華台北4カ国地域5名一組の団体戦。  
 (韓国が優勝)
- (27) 日中韓竜星戦 (第2回 囲碁将棋チャンネル)  
 日本 (一力遼八段)、中国 (柯潔九段)、韓国 (金志錫九段) の竜星が変則勝ち抜き  
 方式で対戦  
 2020年度に延期
- (28) 海外棋戦  
 海外棋戦では、LG杯、三星火災杯、農心杯、夢百合杯、国手山脈杯、黄竜士精錬科  
 技杯、天台山体彩杯、穹窿山兵聖杯、乙級リーグ (中国) などに参戦しました。

平成25年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『GO・碁・ジャパン』を結成し、7年目を迎えました。

令和元年度も監督、コーチ、選手の総勢45名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。チーム参加棋士の棋力強化に向けて、次のとおり取り組みました。

イ 福島県耶麻郡 (7月)、神奈川県三浦海岸 (12月) にて年2回の棋力強化合宿

ロ ナショナルチームメンバーによる定期研究会

また、「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、元年度はファンの皆様から 225 件、4,200 千円の募金がありました。募金は、チーム参加棋士の棋力強化合宿経費等に活用し、チーム強化を図りました。

## 2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

### (1) 院生強化育成（院生研修）

棋士を目指す約 80 人の院生を A から E クラスに分け、毎週土・日曜日（8 回/月）に研修を東京本院・関西総本部・中部総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。またこの院生研修は棋士採用に紐づいており、院生たちが棋士を目指す環境づくりに努めました。

### (2) 棋士採用（研修・試験）

(1) で記したように院生研修は棋士採用に紐づいています。

東京本院で 4 月・5 月・6 月に行われる院生研修において、総合成績 1 位の院生は夏季採用枠で正棋士として採用されます。

関西総本部・中部総本部においても各年毎に院生研修の成績で総合 1 位の院生を各総本部の所属棋士として採用する制度があり、令和 2 年度は中部総本部で実施され、1 名採用されました。

8 月から 11 月まで東京本院では冬季採用試験を実施。外来受験者・院生計 28 名が参加し、上位 2 名が合格しました。また関西総本部・中部総本部においても各年毎に外来受験者を交えた同様の採用試験があり、上位 1 名が各総本部の所属棋士として採用されます。令和 2 年度は関西総本部で実施され、16 名が参加し、1 名が関西総本部所属棋士として採用されました。

また女流特別採用棋士を採用する試験も 1 月から実施しており、外来・院生計 14 名が参加し、1 名が採用となりました。

### (3) 棋士採用（推薦）

(2) の試験とは別に棋士になる方法として推薦制度があります。

昨年度、囲碁普及活動の増進と女流碁界の拡充のため導入された女流特別採用推薦制度は、院生及び院生経験者が対象となり、下記の 1 から 3 の条件のいずれかに該当すれば院生師範によって推薦されます

1. 東京本院において同一年内に院生研修 A クラスに 5 か月以上在籍した者
2. 冬季採用試験本戦において 5 割以上の成績を挙げた者
3. 上記の 1 及び 2 に準ずる成績を収め、かつ将来を嘱望され、所属の院生師範全員の推薦があった者

英才特別採用推薦棋士制度は女流特別採用推薦制度と同じく昨年度導入された制度です。棋道の継承発展、内外への普及振興を目的とするもので、囲碁世界戦の優勝を目

指すなど、最高レベルの棋士となるべく、候補者の実績と将来性を評価し、日本棋院の現役7大タイトル保持者および、ナショナルチーム監督とコーチ3分の2以上の賛成により、採用されます。対象は原則として小学生なため、条件は厳しく、令和2年度は採用がありませんでした。

外国籍特別採用制度は囲碁の海外普及を目的として推薦制度で、日本・中国・韓国・台湾・北朝鮮以外の国籍を持つ院生及び院生経験者が対象で、冬季棋士採用試験において5割以上の成績を収めるなどの条件を満たすと院生師範によって推薦され、採用されます。令和2年度はマレーシア国籍とインドネシア国籍の院生が条件を満たし、採用されました。マレーシア国籍とインドネシア国籍の棋士はそれぞれの国家で初めてとなり、新聞等で報道されました。

上記の採用制度で令和2年度に入段したものは下記のとおりです。

- ・ 東京本院 夏季採用（1名） 藤井 浩貴
- ・ 本院 冬季採用（2名） 三浦 太郎、近藤 登志希
- ・ 関西本戦採用（1名） 中野 奨也
- ・ 中部本戦採用（1名） 北澤 昌章
- ・ 女流特別採用（1名） 張 心澄
- ・ 女流特別採用 推薦（4名） 大須賀聖良、横田 日菜乃（2名、東京）  
塚田 千春、本田 真理子（2名、関西）
- ・ 外国籍特別採用 推薦（1名） 曾 富康（マレーシア）、  
フィトララフィフ シドキ（インドネシア）

#### （4）若手棋士育成

- ① 囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に20歳以下の若手棋士18名が登録・参加。

福島県耶麻郡において、7月26日から30日までの日程で、芝野虎丸七段、藤沢里菜四段を始めとする若手棋士と、一般選手、監督・コーチとあわせた計25名（一部選手とコーチ兼任。関西棋院棋士を含む）が参加して行われた。また、神奈川県三浦海岸において、12月27日から31日までの日程で、芝野虎丸七段、上野愛咲美二段を始めとする若手棋士と、一般選手、監督・コーチとあわせた計37名（関西棋院棋士 台湾棋士を含む）で、棋力強化合宿を実施しました。

### 3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしさを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

#### 3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

- （1）囲碁入門・初級教室の実施

### ① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ 341 名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

### ② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じたジュニア教室を開催しました。

## (2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、特に小学校では授業に囲碁をとりいれてもらう働きかけを強化しました。令和元年度は、小・中・高校の正課授業として 79 校の 14,779 人、正課授業以外として 140 校で 23,805 人が参加いたしました。

令和元年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおりです。

**北海道**：岩見沢市立第一小学校他 5 校、**青森県**：八戸市立八戸小学校他 2 校、**秋田県**：能代市立向能代小学校他 4 校、**群馬県**：高崎市立佐野小学校他 1 校、**埼玉県**：北本市立中丸小学校他 8 校、**千葉県**：市川市立市川小学校他 4 校、**東京都**：千代田区立九段小学校他 18 校、**長野県**：小諸市立東小学校他 1 校、**静岡県**：浜松市立河輪小学校、**愛知県**：長久手市立東小学校他 3 校、**三重県**：熊野市立飛鳥小学校他 7 校、**奈良県**：生駒市立南小学校他 1 校、**岡山県**：岡山市立岡北中学校、**島根県**：大田市立仁摩小学校他 3 校、**福岡県**：福岡市立鳥飼小学校他 2 校、**佐賀県**：佐賀市立南川副小学校他 1 校、**熊本県**：熊本県立玉名高等学校附属中学校

## 〈主な行政囲碁事業の取り組み〉

**【東京都中央区】** 平成 24 年から区内の 4 つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、令和元年度は 11 校の小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

**【東京都品川区】** 放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校 37 校のうち、35 校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」(文部科学省・厚生労働省)において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

## (3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、公益財団法人 J K A の青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国 9 ヶ所で実施し、約 250 人が参加しました。

## (4) 大学での囲碁授業の導入

### ① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成 17 年より、東京大学教養学部と連携して 1、2 年の囲碁初心者を対象にした全学体験ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースと



なっています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的に行っています。

## ② 新たに北海道大学において囲碁授業を開始

これまで囲碁授業開講をしていた東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應義塾大学、青山学院大学、埼玉大学、琉球大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学、近畿大学、京都大学、名古屋大学、福山大学、一橋大学、神奈川大学、大阪大学、日本農業経営大学校、東京学芸大学、九州大学、東京理科大学、愛知学院大学、長岡技術科学大学、信州大学、名古屋市立大学、神奈川工科大学、日本保健医療大学、高崎経済大学、群馬パース大学、千葉経済大学、立教大学、千葉大学、弘前大学、島根大学、高崎健康福祉大学、尾道市立大学に加え、北海道大学が新規開講し、合計 37 大学等となりました。日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。

令和 2 年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行い、さらに複数の大学で囲碁授業が新たに開始する予定です。

## (5) がっこう囲碁普及基金の活用

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと「がっこう囲碁普及基金」を創設し、小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。令和元年度は 280 件、4,000 千円のご支援をいただきました。

## (6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成 17 年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。令和元年度は、20 社よりご支援を頂きました。

## 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超え生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁が取り入れられるよう積極的に活動しました。

### (1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

### (2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

### (3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で約 940 局の指導碁を実施しました。

#### (4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で 236 件実施し、延べ 517 人の棋士を派遣しました。

#### (5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等、全国 148 ヲ所で囲碁未来教室を開催しました。この教室には、指導員及び棋士を派遣し支援しました。

#### (6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び愛好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国 8 ヲ所で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、北海道地区、関東甲信越静地区、中部地区、関西地区の開催を中止しました。開催された地区では現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

##### ○ 第 40 回普及功労賞

- ・ 小原 貞徳（岩手県本部理事長、盛岡支部支部長）
- ・ 菅原 昭治（山形県支部連合会副会長、鶴岡支部支部長）
- ・ 黒沼 正昭（茨城県支部連合会会長、水戸中央支部顧問）
- ・ 奥ノ木信夫（川口支部支部長）
- ・ 松村 龍二（福井健支部連合会理事、奥越支部支部長）
- ・ 糸井庚代子（城南支部支部長）

##### ○ 第 38 回普及活動賞

- ・ 全国で 41 名を表彰

##### ○ 令和元年度優秀支部表彰

- ・ 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1,169 P
- ・ 会員増十傑 一位 志布志囲碁普及支部（鹿児島県）36 名

#### (7) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、6 月 14 日及び 2020 年 1 月 21 日に囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は 2005 年より始まり、今年度で 13 回目を迎えました。

#### (8) 2019 年度中国大学生訪日団第 2 陣との囲碁交流

本訪日団は、外務省が推進する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として中国から招聘され、日中友好会館が実施。団員構成は、スポーツ（卓球、バドミントン、囲碁）及び映像・撮影、美術を学ぶ中国大学生・大学院生の 135 名、その内、囲碁を行う約 30 名は 11 月 13 日、日本棋院市ヶ谷本院に来院し、日本の大学生との囲碁交流対局を行いました。

### 3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

#### (1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、2019年国際囲碁連盟（IGF）の会長国として、中国棋院、韓国棋院の協力を得て、加盟する77か国地域への囲碁の普及と世界の囲碁団体の活動支援に努めました。

#### (2) 棋士の海外派遣

下記の海外で開催された大会に棋士を派遣いたしました。

①ノット・ザ・ロンドンオープン戦 英国・ロンドン

(5月25日-27日 派遣 アンティトルマネン初段)

②オーストリア ウイーントーナメント 2019 ウイーン

(6月19日-24日 派遣 小林千寿六段)

③クロアチア学校囲碁普及事業 クロアチア・ザグレブ

(7月1日-2日 派遣 タラス・カタリン五段)

④世界大学生選手権 豪州・シドニー

(7月7日-13日 派遣 大淵盛人九段)

⑤ワールドユース選手権 マレーシア・クアラルンプール

(7月29日-8月3日 派遣 熊ホウ七段)

⑥US碁コンgres マディソン・ウイスコンシン

(7月13日-20日 派遣 水間俊文七段、田尻悠人五段)

⑦ハンファ生命杯少年少女 ソウル (7月24日-27日 派遣 小松大樹三段)

⑧欧州碁コンgres ベルギー・ブリュッセル

(7月20日-8月4日 派遣 タラス・カタリン五段、張瑞傑三段)

⑨中国碁コンgres 山東省・日照市

(8月19日-25日 派遣 武宮正樹九段)

⑩在ドイツ日本国大使杯 ドイツ・ベルリン

(11月15日-17日 派遣 大橋拓文六段)

⑪第1回東南アジア碁コンgres シンガポール

(12月15日-22日 派遣 マイケル・レドモンド九段)

⑫シアトル碁センターワークショップ

(2020年3月9日-13日 派遣 小松大樹三段)

#### (3) サマー碁キャンプの開催

研修はすべて英語で実施する外国人囲碁愛好家を対象とした「日本棋院サマー碁キャンプ」を8月20日から8月29日まで日本棋院東京本院にて開催し、12カ国から30名が参加しました。棋力向上と、日本の囲碁文化を学ぶという目的のもと棋士の講義、指導碁をはじめ、名人戦見学、世界ペア碁最強位戦観戦、国際交流対局、都内碁会所巡りなど豊富な内容で、好評を得ました。

#### (4) 第40回世界アマチュア囲碁選手権戦 島根松江大会

5月30日～6月7日に「第40回世界アマチュア囲碁選手権戦 島根・松江大会」を開催しました。59か国地域から各代表計59名が参加し、結果、中国代表 王 琛（ワン・チェン）選手（26歳）が全勝優勝しました。

#### (5) IMSA ワールドマスターズチャンピオンシップ 2019

日本棋院はIGF(国際囲碁連盟)の会長国として、IMSA(国際マインドスポーツ協会)主催のワールドマスターズチャンピオンシップに囲碁競技として参加し、5月13日～5月18日、中国河北省衡水市にて開催しました。(ブリッジ、チェス、ドラフト、囲碁、カードゲームズ、シャンチーの6競技) 囲碁は日本・中国・韓国・中華台北・欧州・北米からそれぞれ男子3名+女子2名が出場し、IMSA、衡水市の協力を得て、男子団体戦、女子団体戦、ペア碁戦を行いました。

#### (6) 囲碁指導者研修 イン ヨーロッパ

日本棋院はIGF(国際囲碁連盟)の会長国として、10月5日～6日、オランダ・アムステルダム(ヨーロッパ囲碁文化センター)にて囲碁指導者研修を開催しました。中国囲碁協会、韓国棋院、日本棋院からそれぞれ講師を派遣し講義を行い、研修に参加したヨーロッパで囲碁を指導する30名に指導のノウハウを提供しました。

## 4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

### (1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、来館者の組み合わせを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供しました。延べ人数で市ヶ谷囲碁センターは22,920人、有楽町囲碁センターは49,325人、関西総本部の梅田囲碁サロン19,197人、中部総本部10,700人、合算して102,142人が利用しました。

### (2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコン上やスマートフォン、タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供し、およそ475万局の対局が行われました。

### (3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

## 5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、2,928人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(3) 情報会員

情報会員向けにホームページ上に認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(4) 幽玄の間

『幽玄の間』で一定の条件を満たして免状申請された方に、レーティングによる免状発行を行いました。

## 6 囲碁大会の開催

各都道府県において現地の囲碁愛好者が運営する県の日本棋院県本部あるいは・県支部連合会と連携し、または548支部の協力を得て、囲碁大会の主催・後援等を行いました。

### 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会を実施しました。そのほかにも子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1) 第43回文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

高校生を対象とし、個人戦と3名一組の団体戦をそれぞれ男女別に合計4部門に分かれて行われる大会です。都道府県大会には全国で1,176校3,483名（男子:2,462名・女子1,021名）が参加。女子の参加が増えました。

代表選手が集まる全国大会は7月22日から24日にかけて東京・日本棋院で行われました。

男子団体戦は開成高等学校（東京）、女子団体戦は洛南高等学校（京都）が優勝、男子個人戦は鈴木智大さん（神奈川・柏陽高等学校）、女子個人戦は加藤優希さん（愛知・名古屋大学教育学部附属高等学校）が優勝しました。

本大会は公益財団法人JKAより競輪の青少年健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(2) 第17回文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学生を対象とした3名1チームの団体戦です。都道府県大会は小学校306校、1,012人、中学校172校、719人が参加しました。

全国大会は7月28、29日に東京・日本棋院で実施され、小学校の部は杉並区立天沼小学校（東京）、中学校の部は下野市立国分寺中学校（栃木）が優勝しました。

本大会は公益財団法人JKAより競輪の青少年健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3) 第40回文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

小・中学生を対象とした個人戦で、都道府県大会には小学生 3,057 名、中学生 1,230 名、合計 4,279 名が参加。県内複数個所での開催、入門講座や初級者大会も実施しました。

全国大会は、7月30日、31日に東京・日本棋院で実施され、その模様はNHK Eテレで放送されました。

小学生の部優勝は後藤 一さん（京都・京都市立向島藤の木小学校）、中学生の部優勝は武島 蓮さん（広島・江田島市能美中学校）でした。

本大会は公益財団法人 J K A より競輪の青少年健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

#### (4) 第9回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

小学生を対象とした個人戦で、低学年の部、高学年の部に分かれています。

全国大会は2019年12月14、15日に岡山県倉敷市で行われ、こども棋聖の称号をかけて競いました。

低学年の部は長尾想太さん（石川・津幡町立津幡小学校）、高学年の部は鈴木唯斗さん（千葉・八千代市立高津小学校）が優勝しました。

#### (5) その他の主なこども大会

・ロッセこども大会：「コアラのマーチ」のキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、入門から級位者まで779名が参加しました。

・ジュニアフェスティバル：ガーデンテラス紀尾井町を会場に、著名棋士がゲストに登場。保護者も含め1,000名以上が来場しました。

## 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなりました。

#### (1) 第12回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦まで9クラスに分かれての棋力別大会。全国12都市、13会場で延べ15回の大会を実施し、約10,000名が参加しました。2029年1月26日に京都のホテルグランヴィア京都において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

#### (2) アマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦

アマチュア碁界三大棋戦であるアマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦は本年も全国から多数の参加を頂き、全国大会を東京・日本棋院で実施しました。第14回朝日アマチュア囲碁名人戦全国大会は7月6日、7日に実施、大関稔さん（招待）が優勝し、アマチュア名人位への挑戦者となりました。決勝三番勝負も勝利しアマ名人位に輝きました。

第65回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会は8月17、18日に開催、大関稔さん（神奈川）が栄冠に輝きました。

囲碁・将棋チャンネル杯第41回世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦は、本年からアマチュア竜星戦世界アマ日本代表決定戦となり、第18回大会として11月23、24

日に行われ、森川舜弐さん（愛知）が世界アマ世界大会への切符を手にししました。

(3) 第61回全日本女流アマチュア選手権大会

女流のアマチュアを対象とした大会。3月9、10日に東京・日本棋院で全国大会を開催しました。吉田美穂さん（神奈川）が二度目の優勝に輝きました。

(4) 第57回女流アマチュア都市対抗戦

女流のアマチュア5名1チームの団体戦で、アマ碁界最大規模の都市対抗戦。6月8、9日の2日間、島根県松江市で開催しました。全国から400名の選手が参加し、最上位のAクラスは白ゆり会（神奈川）が三連覇を果たしました。

(5) 阪急納涼囲碁まつりの開催

「阪急納涼囲碁まつり」は、東京は8月11、12日、大阪は8月13、14日にそれぞれ開催され、合計約2,500名のファンが来場し、公開対局、囲碁大会等の様々なイベントに参加しました。

(6) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、1,303人が参加しました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1009人が参加しました。

(7) 全国規模イベントへの参加

11月4、5日に富山県中新川郡舟橋村で行われた「ねんりんピック健康福祉祭」へ、生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士を派遣したほか、その他のさまざまなイベントにも棋士を派遣する等を通じて参加・協力を致しました。

(8) インターネット大会

インターネット対局サイト「幽玄の間」を利用し、第18回囲碁アマチュア竜星戦スカパー！杯ネット囲碁選手権（参加者数614名、前年比-382）を実施しました。また第5回ネット囲碁都道府県対抗戦の開催は見送り形式を変更して2020年度に実施予定です。

(9) その他大会等

平成25年から1月5日を「囲碁の日」と制定し、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しています。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とするとともに、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

### 6-3 国際囲碁選手権及び海外囲碁大会等への協力

(1) 第6回世界大学生囲碁選手権

7月7日～13日、国際大学囲碁連合、上海応昌期教育基金会、オーストラリア囲碁

協会が主催する世界大学生囲碁大会が豪州・シドニーにて開催。世界各国の大学生参加 100 名中、日本からは大学生 12 名を出場させました。

- (2) 第 19 回ハンファ生命杯 少年少女囲碁選手権戦（主催：韓国アマチュア囲碁協会）  
7 月 24 日から 27 日にかけて韓国ソウルにて開催。日本からは 2 名の子どもたち及び小松大樹棋士を監督引率者として派遣しました。参加選手は中国、中華台北、日本、ヨーロッパ、タイ、インドネシア、ベトナムから計 11 名の対戦となりました。
- (3) 第 14 回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦  
8 月 31 日から 9 月 6 日、韓国・寧越郡にて開催され、日本からアマ代表の川口飛翔選手が参加しました。
- (4) ワールドユース囲碁選手権戦  
7 月 29 日から 8 月 3 日に、応昌期教育基金が主催するワールドユース大会がマレーシア・クアラルンプールで開催されました。カナダ、中国、ヨーロッパ、日本、韓国、シンガポール、マレーシア、タイ、アメリカから 20 名の子供たちが一堂集結しました。
- (5) 第 30 回国際アマチュアペア碁選手権戦  
12 月 7 日～8 日、東京にて日本ペア碁協会が主催する国際アマチュアペア碁が開催されました。日本棋院は毎年、本大会開催に協力しています。

## 7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ、毎年表彰しております。ただし例年 3 月末に実施している合同表彰式は、コロナウイルスの感染予防のため、令和 2 年度は実施いたしませんでした。

### (1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和 39 年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

#### 第 49 回大倉喜七郎賞

若佐 博之 日本棋院松江支部理事 副支部長、社会福祉法人島根県共同募金会会長

竹村 肇 株式会社飯田 取締役相談役

佐川八重子 (株)桜ゴルフ 代表取締役

有澤 寛 日本棋院松江支部支部長、山陰中央テレビジョン放送 (株) 会長

坂口 隆三 日本棋院棋士九段 (関西総本部所属)

### (2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和 38 年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

#### 第 57 回秀哉賞

芝野 虎丸 名人・王座

### (3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」(昭和 42 年)によっ



て創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第53回棋道賞（段位タイトルは受賞時）

最優秀棋士賞 井山 裕太 棋聖・本因坊・天元

優秀棋士賞 芝野 虎丸 名人・王座

新人賞 孫 喆 新人王

女流賞 上野愛咲美 女流本因坊

国際賞 該当なし

最多勝利賞 芝野 虎丸 名人・王座 52勝（18敗）

勝率第1位賞 一力 遼 竜星・NHK杯 0.7705（47勝14敗）

連勝賞 一力 遼 竜星・NHK杯

（16連勝 2019年7月4日から2019年9月23日）

富士田明彦 七段（2回記録）

（16連勝 2018年10月11日から2019年2月28日）

（16連勝 2019年6月10日から同年10月3日）

最多対局賞 芝野 虎丸 名人・王座（70局）

（4）囲碁殿堂表彰

日本棋院創立80周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

令和元年度 第16回殿堂入り 坂田 栄男（1920年－2010年、日本棋院棋士）

趙 南哲（1923年－2006年、韓国棋院棋士）

## 8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

（1）雑誌、新聞の発行

① 「月刊碁ワールド」定価990円 毎月20日発売 B5判 152頁建

中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。井山棋聖7連覇、本因坊文裕8連覇、井山天元5連覇、芝野名人の初10代名人および初王座、鈴木歩の初女流棋聖等の話題を取り上げております。

② 「月刊囲碁未来」定価770円 毎月5日発売 B5判 100頁建

入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座・読み物、布石・定石等の問題を多数掲載しました。

③ 「週刊碁」定価330円 毎週月曜日発行 新聞タブロイド判 20頁建

週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、

アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成となります。

④ 「囲碁年鑑」定価 3,850 円 年 1 回発行 B 5 判 396 頁建

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑等を掲載しております。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、棋戦情報、大会・イベント情報、棋士に関する情報、出版情報など、囲碁に関する様々な情報記事を日本語のほか、自動翻訳機能により英語・中国語・韓国語で提供しています。

年間 1,300 件以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新し、全世界で延 101 万ユーザーから年間 1884 万（前年比+45 万）アクセスがありました。

③ 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を 2,000 局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の再生が出来る仕組みを提供しています。そのほか、同好会機能による囲碁ファン同士の交流も行なっています。

④ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60 年以上に亘る、6 万 6 千局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

④ 囲碁アイランド

主に若年層の入門を促進するため iOS と Android で囲碁アイランドの提供を平成 27 年より開始しました。アニメーションと問題を解いて囲碁のルールを覚え自然に上達できる本ソフトは利用者から好評をいただいています。

⑤ 電子書籍アプリ

iPhone&iPad 端末からは「i 碁 BOOKS」、パソコンからは「e 碁 BOOKS」として週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍を電子書籍アプリで配信しました。

⑥ YouTube 「日本棋院囲碁チャンネル」

2018 年 2 月に映像配信サイト「YouTube」上に「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、棋戦や表彰式をライブ配信しました。配信イベント数 62 回、チャンネル登録者数 13,702 名（前年比+6,158）、視聴回数 1,399,644 回（前年比+745,517）、総再生時間 518,799 時間でした。

## 9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に

紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。令和元年度入館者数は3,800人、特別対局室見学者は450人。

## 10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

### 10-1 有楽町囲碁センター

有楽町囲碁センターは、平成25年6月に移転以降、6年が経過し、日頃のご愛顧に感謝し、6周年記念イベントとしてタイトルクラスの棋士による特別指導碁を行いました。

立地の良さとファンの皆様に喜ばれる大会等を開催して今年も多くファンに来館頂きました。

(1) 各種大会の開催（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・段級位認定大会 460人
- ・松竹梅囲碁大会 602人
- ・19路盤初心者のための「はじめての宝酒造杯」 184人

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は49,325人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

### 10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

普及拠点である「梅田囲碁サロン」および「茶屋町囲碁サロン（会員制）」を運営し、各種囲碁イベント、貸室、懇親会そして教室等を開催しました。

(1) 各種大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- ・夏休み子ども囲碁フェスティバル (249人)
- ・第52回歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり (106人)
- ・阪急電鉄 納涼囲碁まつり 大阪 (2日開催 987人)
- ・定例段級位認定大会 (年6回開催 460人)
- ・級位者大会〔年5回〕および各種親睦大会〔年16回〕 (合計1,005人)

(2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

・「梅田囲碁サロン」を年末年始以外、年中無休で営業し普及に努めました。会館ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日、有段者の集いを開催し、貸室利用においては囲碁学校、入門教室をはじめ各種団体の勧誘を行い、また、販売サービスとして盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えの充実にも努め、快適な環境改善に取り組み、コロナウィルスの影響により3月は休館となりましたが年間19,197人に利用して頂きました。

- ・「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして大阪市北区茶屋町で営業しております。会員数は現在36名、法人会員は1社減の5社となりましたが、引き続き新たな顧客ニーズに対応した普及を行っております。

(3) 大学での囲碁講座開設への取組み

令和1年度は関西圏の大学3校で囲碁講座が取り入れられました。引き続き若者層への普及拡大として今後も各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行います。

(4) 小中学校および当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及活動

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の小学校や幼稚園等に総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう働きかけ、入門教室等の開催など授業導入の足掛かりとなりました。また、すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等も行いました。今後も引き続き子ども達への普及をより一層拡大するように努めます。

地域普及への活動として、令和1年度は尼崎こども本因坊戦、大阪府寝屋川市、東大阪市、広島県廿日市市そして広島県本部創立40周年記念など地域主催の大会への運営援助を行い地域の囲碁普及に努めました。

### 10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦（33人）
- ・ジャンボ団体戦（264人）
- ・中部こども級位者大会（132人）
- ・セントレア囲碁まつり（198人）
- ・日経杯新春囲碁大会（114人）
- ・江蘇省囲碁交流（110人）

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・中日新聞社主催「第60期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実に努めました。入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全11講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。「入門初級講座」「よく分かる囲碁講座」「こども教室」「ジュニア有段教室」「実力向上講座」「レディース講座」「目指せシングル級講座」「目指せ初段講座」「特別高段講座」「総合講座」「モーニング講座」

(4) 部屋の貸付

令和元年度では、6社に対して部屋の貸付を行いました。また、10月末までの短期間ですが、マンション建設現場の事務所としてご利用頂きました。

#### 10-4 海外囲碁センター

- (1) 2014年5月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会（AGA）と提携して米国NPO法人『岩本北米基金＝I N A F』を創設し、アメリカ東海岸センターの活動促進や、日米文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の支援をしています。
- (2) シアトル囲碁センターは全米各地から来場する囲碁ファンが増えており、北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターの活動を支援するため、毎年シアトルへ棋士派遣を行う等、現地法人と連携を取り合っています。
- (3) ブラジル・サンパウロにあるブラジル日本棋院（南米本部）は、建物の老朽化に伴い補修を行い、現地の組織体制も一新され、南米での囲碁普及活動を行っています。
- (4) オランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センター（EGCC）は、建物の老朽化のため修繕を行いましたが、建物の維持運営は難しい状況で、2020年1月から閉館しています。今後は本センターの物件を売却して、その資金で新囲碁基金を開設し、ヨーロッパの新たな囲碁普及活動を目指す予定です。

## II 収益事業

### 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

#### （1）免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。免状は、棋力の証明となるもので、9級から八段までの1,761通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

#### （2）普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、従来の初段以上から9級以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を拡大し、指導者の充実を目指しました。六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

### 2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では2F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

### 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

#### （1）販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

#### （2）書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書等、囲碁に関する書籍を、日本棋院の各拠点及び全国の書店にて販売しております。また、本年度につきましては「世界の囲碁ルール」、「7路で上達／有段者編」、「7路で上達／級位者編」、「ダイレクト三々」、「新発想の置碁」、「痛快！ ダメヅマリ100問」の新刊を発行しております。

## III 管理部門

### 1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。令和元年度は、内部統制取組方針に基づき、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、ヘルプデスクの設置等の改善取り組みを実施しました。

### 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受

取寄付金の維持・拡大を図りました。囲碁ナショナルチームの「GO・碁・ジャパン応援募金」、小・中・高・大学等での囲碁授業向けの「がっこう囲碁普及基金」、法人賛助会員等の維持拡大を図り、囲碁の普及のために有効活用を図りました。

なお、個人と法人向けの「GO・碁・ジャパン応援募金」「がっこう囲碁普及基金」は、それまでの所得控除に加え、平成 28 年 3 月から税額控除の対象として証明を受けています。

### 3 広報対応と棋士のメディアへの露出

芝野虎丸名人や上野愛咲美女流本因坊、仲邑菫初段の活躍にけん引される形で、囲碁界全般に注目が集まり、テレビやスポーツ新聞で囲碁の記事を目にする機会が増えました。

バラエティー番組に芝野名人が招聘されたことや、連載ドラマの主人公に囲碁の女流棋士役が設定になるなど、多方面での影響が見られたことは、これまでなかった現象でした。

## IV 「100周年ビジョン」の推進

囲碁人口の減少、日本棋士の強化、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創立90周年にあたる平成26年に、10年後の100周年（2024年）に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100周年プロジェクト」を開始しました。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感をもとに、以下の10の行動を提言し、継続的に取り組むこととします。

〈100周年の姿〉 囲碁人口500万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

### 行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

- (1) 教育への導入。
  - ・ 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の正課授業の拡大。
  - ・ 中学校・高校・大学の囲碁部への支援。  
⇒ 小・中・高等学校79校導入、延べ14,779人体験（2020年3月）。
  - ・ 大学への囲碁講座の拡大。⇒ 37大学（2020年3月）。
- (2) 社会人と女性・高齢者への普及。
  - ・ 企業新入社員研修等に囲碁を導入。
  - ・ 囲碁ガールズの拡大。
  - ・ 碁会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大。  
⇒ 碁会所支部めぐり。  
⇒ 全日本囲碁協会と連携強化。
- (3) 草の根囲碁普及活動の支援。
  - ・ 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一。
  - ・ 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援。
  - ・ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化。  
⇒ 級位者でもなれる普及指導員に制度改定。

〈100周年の姿〉 世界トップ10に2人、トップ20に4人、トップ50に10人。

### 行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

- (1) 棋士の登用。
  - ・ 棋士採用制度の改革⇒英才枠採用の新設（2019年度採用）。
  - ・ 院生のAIとの練習対局の充実（2019年度より）。
  - ・ 棋士採用時に社会人としての人格構成を院生師範と強化。
- (2) 若手棋士の育成。⇒ 女流特別枠棋士採用条件の改定（2018年9月～）。
  - ・ ナショナルチームの活動強化。  
⇒ 棋力強化合宿、海外棋戦への積極的参戦。  
⇒ 中国乙級リーグ参加（2018年6月）。



- ⇒ 募金への理解を深める活動予定（2019年度）。
  - ⇒ 活動の整理と強化策の再検討（2019年度）。
  - ・ジュニアアカデミーによる全国から才能ある人材を集める。
- (3) ランキング制度の導入。
- ・国内ランキング制度の検討。 ⇒ IGFランキング制を参考に継続検討。

## 〈100周年の姿〉 日本棋院会員を10万人以上！！

### 行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

- (1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ外部人材を登用（理事17名中 外部理事9名）。
- (2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を、重視する棋士の報酬制度のあり方を検討。
- (3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。 ⇒ 2017年度より実施。
- (4) 財務基盤強化。
  - ・棋士の報酬に係る財務分析を行い、将来にむけた対策を検討。
  - ・会員制度の改革・・・個人会員・ネット会員を見直し、新たな日本棋院会員を創設。

#### (基本方針)

- イ 無料ID者を棋院会員に取り込む。
    - ⇒ 2018年4月に「日本棋院ID会員」「メルマガ会員」を創設。
  - ロ 紙面会員の15メニューは、統廃合を整理。また、紙面会員は、高齢層、収支への影響を考慮し継続するが、減収に歯止めは掛からないので、新サポート会員の拡大を図ることにより減少に歯止め。
    - ⇒ 2019年6月より碁ワールド、囲碁未来、週刊碁の定価値上を実施。
  - ハ 新規会員は、基本的にネット申込会員とする〈新サポート会員〉。  
「幽玄の間」会員は、魅力のあるサービスの展開を図り収益の拡大を図る。
  - ニ 会員拡大、収納管理の効率化、大会申込等の入会システムの改善、  
物販システム効率化等のためにECサイトの導入を検討。
    - ⇒ 2019年9月より、ネット対局「幽玄の間」の請求データ作成処理システムの構築により、業務簡素化を推進。
  - ホ 囲碁ファンの入口としてのHPの使い勝手などを継続的に見直す。
    - ・日本棋院ドリームファンディングによる13路盤プロ・アマトーナメント戦実施。
    - ⇒ 財務基盤強化は、以下を中心とする。
- (1) ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売をして、ロングテールで収入増へ。
  - (2) 会員制度の改革：個人会員、ネット会員を見直し共通の日本棋院会員（仮称）を創設する。大会への参加や、日本棋院、総本部、本部支部の割安使用、ネッ

ト・出版の割安購入、自戦解説付き棋譜提供等による会員メリット向上。  
⇒ 2018年に「日本棋院ID会員」「メルマガ会員」を新設。

〈100周年の姿〉地域対抗、実業団が加わり、世界女流アマチュア囲碁選手権戦を開催する。

**行動-4 地域対抗・実業団棋戦と世界女流アマチュア囲碁選手権戦の創設**

- (1) 地域対抗プロ・アマ棋戦の創設。
- (2) 実業団対抗戦の創設。
- (3) 世界女流アマチュア囲碁選手権戦開催(2020年5月1日～7日東京にて開催予定)。  
⇒ 世界女流アマチュア囲碁選手権戦はCOVID-19の影響により開催中止。

**【2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて】**

- ・ 2020世界女流アマチュア囲碁選手権、サマー碁キャンプなどの開催や地域囲碁サミット、地域碁コンGRESSを開催する。  
⇒ 2019年6月、2019女流都市対抗戦を島根県松江市で開催。
  - ・ 議員囲碁連盟、行政(文科省、文化庁、東京都庁、外務省等)への取り組み推進。  
⇒ 2019年8月、日中韓国会議員親善囲碁交流(中国・成都)開催。
- (4) タイトル戦をファンがより楽しめるような仕組みを検討。  
⇒ 2018年2月より、7大タイトル戦等のYou Tube配信を拡大中。
  - (5) 遠隔地の方との対局には、ネット対局を拡大。
    - ・ 「幽玄の間」会員による地域対抗戦の開催など継続実施。  
⇒ 「第1回SGW杯中庸戦」予選ネット対局による新棋戦新設(2018年10月)。

〈100周年の姿〉 ネット会員10万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

**行動-5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール**

- (1) ネット戦略を構築するため継続的に抜本改革を行う。
- (2) 「幽玄の間」のサービス拡充。
  - ・ 「幽玄の間」会員の拡充のためのサービスメニュー検討、情報会員の見直し。  
⇒ 2019年、「幽玄の間」専用のAIサーバー設置によるAI評価価値表示を導入。
- (3) 入門・初級者戦略。
  - ・ 入門・初心者向けアプリ「囲碁アイランド」(iOS Android)の拡充。
- (4) YouTubeに「日本棋院囲碁チャンネル」を開設し、対局等の映像を配信し、普及・ビジネスの拡大を図る。  
⇒ 2018年2月に実施。
- (5) ホームページの活用。
  - ・ ホームページのさらなる利用向上。
  - ・ 大会参加や会費納付、囲碁用品販売を念頭に置いたECサイトの導入検討。
  - ・ 広報・宣伝機能の充実(専門家の登用検討)。
  1. ネット戦略を構築するプロジェクトチームを組成して、抜本的にあり方を

検討する。

(6) 棋譜自動形成システム導入検討 (2019年12月～)

2. 「幽玄の間」サービス拡充。

情報会員とのサービス相互乗り入れ、決済機能の強化、会員種別の多様化(年払い会員、限定利用会員)など。

⇒ 日本棋院ID会員、メルマガ会員の開設によるPR推進中。

3. 入門・初級者戦略。

スマートフォンを中心とした、自社開発コンテンツの提供や既存アプリとの連携による、入門・初級者の取り組み。

⇒ スマホアプリ(UPLINK)利用によるアマチュアイベント情報提供(2020年2月～)

4. ホームページの活用。

公式ページでの全国各地の大会・イベント情報発信とWEBでの大会エントリー受付やファンと棋士の交流広場。

⇒ イベント情報発信、エントリー受付をWEBで実施し、業務円滑化を推進中。

〈100周年の姿〉 囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。ニコ動、YouTube中継を10万人以上が活用。

行動-6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

(1) 日本棋院内に専門家によるメディア戦略・広報チームを組成。

(2) 既存メディア(TV、新聞、雑誌)との関係強化。

・タイムリーなニュースリリース発信、新聞各社との連携強化(記者発表等)。

⇒ 2019年1月より、ニュースリリース発信対象社を拡大。

・スタープレイヤーの積極的掲載・取材による「囲碁」のPR推進。

⇒ 新規メディアの開拓。 ⇒ 井山七冠 国民栄誉賞受賞記念式典を開催済。

⇒ 2019年1月より、仲邑菫初段のプロデビューに際し、積極的にメディアへの情報発信を実施。

(3) 新規メディアの開拓。

・ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアも活用。

⇒ 2018年6月より出版ツイッター開始

・ニコ動、YouTube等動画の活用。

⇒ 2018年2月より、YouTube日本棋院囲碁チャンネル映像配信。

(4) 漫画、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

⇒ (株)くもん出版との「NEWスタディ囲碁」発売への協力。

〈100周年の姿〉 東京オリンピック・パラリンピックで囲碁フェスティバルが開催され、世界のGOの中心として日本が輝いている。

## 行動-7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

(1) 東京オリンピック・パラリンピックにあわせた囲碁の世界発信。

・「サマー碁キャンプ」等のイベントを拡大し、インバウンド内容を充実。

⇒ 2019年8月、「サマー碁キャンプ2019」 in 東京を開催。

⇒ 2020年6月、「サマー碁キャンプ2020」 in 東京を開催予定。⇒開催延期

⇒ 2020年8月、第36回US碁コンgres「コロラド州ロッキーマウンテン」及び第64回欧州碁コンgres「ウクライナ・カームヤネツイ ポジリシクイ」への棋士派遣予定。⇒開催検討中。

⇒ 2020年8月、第36回US碁コンgres「コロラド州ロッキーマウンテン」及び第64回欧州碁コンgres「ウクライナ・カームヤネツイ ポジリシクイ」への棋士派遣予定。⇒開催検討中。

⇒ 2020年5月、「世界女流アマチュア囲碁選手権戦」を新設、開催予定。

⇒ 世界女流アマチュア囲碁選手権戦はCOVID-19の対応で開催中止

(2) シアトル、サンパウロ碁センターの拠点、また、INAF（岩本北米基金）を活用した日本囲碁の世界への普及拡大。

⇒ 2020年8月、INAF北米「アウトバウンド」交流事業として、US碁コンgresに棋士派遣。また北米囲碁基金が開催するイベントに棋士派遣。⇒開催検討中。

⇒ 2020年3月、シアトル碁センターに棋士派遣。

・USコンgres、欧州コンgresへ棋士の継続派遣による囲碁普及の拡大。

・海外大使館との連携による囲碁普及拡大。

⇒ 2019年11月、在ドイツ日本大使杯棋士派遣「ベルリン」。

⇒ 2019年12月、東南アジア碁コンgres棋士派遣「シンガポール」

⇒ 2020年7月、クロアチア文科省が助成する囲碁イベントに棋士派遣。

(3) コンテンツを翻訳し日本発囲碁コンテンツを展開する。

・HPには英語・中国語・韓国語で訳せる機能導入提供。

・AI棋戦や世界棋戦での英訳等中継発信。

〈100周年の姿〉 囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

## 行動-8 囲碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

(1) 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能を組み合わせた、指導法を確立する。

・「Deep Zen Go」との協同。

⇒ 2018年度、棋士研修用として、「幽玄の間」への囲碁ソフトAI導入(Leera Zero、ELF Open Go、AQ等)。

(2) 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人・シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。

・子供にとって囲碁による情操面、頭脳面での効能。

- ・囲碁と学業成績との相関性実証調査。
- (3) 大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想など、ビジネスへの活動分析を深める。
- ・大学正課授業導入拡大、企業での社員囲碁講座導入の推進。
- ⇒ 大学の正課導入は2020年3月実績で37大学。
- (4) シニア向けの研究を強化する（絆づくり、アルツハイマー研究、認知症研究）。

〈100周年の姿〉 地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

- (1) 日本棋院の地域普及の柱。
  - ・地域定住棋士制度の創設検討。
  - ・独立採算制が可能なブロック制検討。
  - ⇒ 九州本部での検討。
- (2) 本部・県連・支部活性化と普及の拡大。
  - ・県本部・県連と連携し普及強化（棋士派遣等）を行い支部組織の活性化。
  - ⇒ 2019年2、3月に2018年度支部代表者懇談会実施。
  - ⇒ 2020年2、3月に2019年度支部代表者懇談会実施予定。
  - ⇒ 2020年1月に棋聖戦関連囲碁イベント（埼玉県川越市400名参加）
  - ・囲碁愛好家の底辺拡大のため「入門・初心者」会員の継続的拡充。
  - ・常務理事による地域アカウント体制の継続検討。
  - ・支部代表者懇談会を捉えた支部等意見の課題対応。
- (3) 「囲碁祭り」のような地方自治体との強化体制を図りながら、地域の囲碁活性化を図る。
  - ・平塚囲碁祭り、川越囲碁祭りなどの拡大。
  - ⇒ 平塚囲碁まつり、川越囲碁まつりとも継続的に実施。
  - ・日本棋院主催、後援大会等の積極的支援。
  - ・囲碁サミット加盟市町村並びに県本部等を中心とした地方自治体との体制強化を行い、地域の囲碁活性化を図る。
  - ⇒ ふるさと再発見事業 瀬越憲作展（11/30～12/15 江田島市教育委員会主催 600名参加）
  - ⇒ 市長・教育長へのアプローチによる囲碁大会、学校授業拡大。地域の絆作りに、囲碁を積極的に継続して提案。
  - ・震災復興祈念囲碁イベント支援の継続実施。
  - ⇒ 2018年10月、北海道胆振東部地震、2018年11月、西日本豪雨復興支援チャリティイベントを開催。

〈100周年の姿〉 ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 囲碁ファンの声を尊重し、100周年に向け発展を！

- ・ 9路盤、13路盤のスマホアプリの拡充 ⇒ 13路盤プロ・アマ戦。
  - ・ トライボーディアン（囲碁、将棋、オセロ）選手権。
- ⇒ 2019年12月、第5回グロービストライボーディアン日本選手権開催。
- ・ ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクター採用によるホームページ、雑誌、新聞等への活用。

## 役員等に関する事項

令和2年3月31日現在

役名	氏名	就任年月日	担任職務	備考
総裁	今井 敬	H16.7.13	総裁	日本製鉄株式会社 名誉会長
顧問	大竹 英雄	H24.6.26	顧問	日本棋院棋士 九段
理事長	小林 覚	H30.6.26	理事長	日本棋院棋士 九段
常務理事	後藤 俊午	H30.6.26	関西総本部	日本棋院棋士 九段
〃	大淵 盛人	H26.6.24	総務人事部、財務部、経営企画室	日本棋院棋士 九段
〃	宮崎龍太郎	H30.6.26	事業部、広報室	日本棋院棋士 七段
〃	久保 秀夫	H30.6.26	棋戦企画部	日本棋院棋士 七段
〃	平野 則一	H22.7.30	普及部・コンテンツ事業部	日本棋院棋士 五段
〃	重野 由紀	H28.6.28	中部総本部	日本棋院棋士 二段
理事	小松 英樹	H30.6.26		日本棋院棋士 九段
〃	佐川八重子	H30.6.26		株式会社桜ゴルフ 代表取締役
〃	角 和夫	H25.6.25		阪急電鉄株式会社 代表取締役会長
〃	高濱 正伸	H30.6.26		花まる学習会代表
〃	外池 徹	H30.6.26		アライドメディカル代表取締役、 アフラック元相談役
〃	原 幸子	H28.6.28		日本棋院棋士 四段
〃	堀 義人	H25.6.25		グロービス経営大学院 学長
〃	松浦晃一郎	H23.6.21		元ユネスコ事務局長、世界ペア碁協会 会長
〃	吉川 正夫	R1.6.25		大成建設株式会社 常務執行役員
監事	橋本雄二郎	H30.6.26		日本棋院棋士 九段
〃	大内 隆美	H30.6.26		構想日本政策スタッフ
〃	藏本 隆	H30.6.26		公認会計士、税理士

## 令和元年度 事業報告

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 2 年 6 月

公益財団法人 日本棋院